

『旅』の終わりに150周年

ロザリオ行列と記念ミサ



第1部は11時50分、大波止での出発式に始まり、流配地の藩名を記したたすきをかけた22人の代表者らが、ロザリオの祈りを唱えながら西坂公園へ向けて行列。公園到着後は集まった人々も加わり、約130人が13時15分から1時間以上をかけて浦上教会を目指しロザリオを練りながら歩いた。

浦上四番崩れによって浦上信徒らが全国22カ所に流配された出来事、『旅』からの帰還150周年にあたる今年、長崎大司教区は信仰を証しした浦上の人々に思いをはせ、記念するために、5月28日(日)ロザリオ行列とミサを行った。



最後には22人の代表者ら

から若い世代の人々へ「信仰のバトン」が受け渡された。長崎教区は2018年、『旅』の始まり150周年を記念、『旅』の終わりに150周年は、今回の他、7月23日(日)浦上教会での高校生による演劇上演、9月10日(日)14時十字架山でのミサを通して記念する。

4年ぶりに雲仙殉教祭

各地から約1000人集う

雲仙殉教祭が5月21日(日)13時から雲仙メモリアルホールで4年ぶりに行われた。各地から集まった約1000人が、中村倫明大司教の司式、約30人の司祭団の共同司式のもと、殉教者のため事前に準備したビデオ映像で映し出された。

雲仙殉教祭が5月21日(日)13時から雲仙メモリアルホールで4年ぶりに行われた。各地から集まった約1000人が、中村倫明大司教の司式、約30人の司祭団の共同司式のもと、殉教者のため事前に準備したビデオ映像で映し出された。

あゆみの家

開設50周年記念祝福ミサを終えて

みさかえの園あゆみの家 施設長 平松公三郎

施設長 平松公三郎

どのような障害をお持ちの方も、もれることなく受け入れる施設がなければならぬとの思いで、聖母の騎士修道女会の故シスター中山和子が小長井の地に2つの福祉施設と2つの重症心身障害児者施設(重症児者施設)を開設されました。

そのひとつ「あゆみの家」は、知的な面と身体的な面での重度の重複障害をお持ちで、かつ医療が必ずやな方110名が入所される施設です。1973(昭和48)年5月23日に5名の入所者を初めて受け入れて開設され、2018(平成30)年8月1日に現在の大村の地に新築移転しました。本年度開設50周年を迎え、5月13日(土)に中村大司教様にお越しいただき祝福ミサを執り行いました。利用者、職員ならびに保護者代表、法人関係のシスターが参列し、厳かな中にも心温まるミサとなりました。中でも、中村大司教様による50周年の数



謝の一日でした。

歴史をともしにあゆむ

中村大司教と青年の交流会

教区青少年委員会の主催により、6月18日(日)浦上教会までの道のりを中村大司教と青年たちが歩いた。今回は、浦上キリシタンの帰郷150周年にあたり、「信徒発見」四番崩れの歴史をともしにあゆむ」をテーマに徒歩巡

から帰郷にわたる歴史について説明を聞き、同天主堂の信徒発見の聖母の前の道歩きをした。約1時間半の「旅」を終え浦上教会に着いた一行は、被爆マリア小聖堂で中村大司教と一緒にロザリオの祈りをささげた。



午後7時から第2部として、中村大司教と青年たちは大司教館でバーベキューを楽しみ、互いに交わりを深めて解散した。

「争いと激動の喧騒の世にあっても、創造主からの恵みと光は常に注がれます。この光を通してより深い真理に触れ、悟る知恵と勇気が与えられますように、本作品が光に向かういのちの絆の一助となれば幸いに存じます」(あとがきによせて)から。著者は純心聖母会会員、カトリック美術協会会員、東京純心大学元学長・教授。教友社、税別1600円。

新刊良書

いのちの扉に光射して 浦田カズ代 絵画・詩集 著 浦田カズ代



2021年発行の『いのちの扉に風が吹くと』に続く姉妹編。

イベント



「ご聖体は賛美されますように」と唱えた殉教者思いで書き上げたという歌「奇跡」を流し、「どんなに切なくても、必ず明日は来る」「あなたは一人じゃない。いつもそばにいます」と歌詞を紹介。「本当にいつもそばにいます」の神様だけが出来ること」と語り、さらに、「地獄の熱湯を受けながらも

「旅」の終わりに150周年記念・十字架山殉教祭 9月10日(日)14時、十字架山(長崎市辻町)。※参加には制限があります。福者カミロ・コンスタンツオ殉教祭 9月17日(日)14時、焼罪史跡公園(平戸市平町)。雨天時、田平教会。

- ▼大村殉教祭 9月3日(日)13時30分、シハットおおむら・さくらホールでミサ。
▼聖母平和祈願祭 8月15日(火)12時ゆるしの秘跡、13時ロザリオ、14時ミサ。アルカスSASEBO。
▼大村殉教祭 9月3日(日)13時30分、シハットおおむら・さくらホールでミサ。

「争いと激動の喧騒の世にあっても、創造主からの恵みと光は常に注がれます。この光を通してより深い真理に触れ、悟る知恵と勇気が与えられますように、本作品が光に向かういのちの絆の一助となれば幸いに存じます」(あとがきによせて)から。著者は純心聖母会会員、カトリック美術協会会員、東京純心大学元学長・教授。教友社、税別1600円。

カトリック長崎大司教区 生涯養成委員会主催 2023年度 カトリック講座のご案内

2023年度生涯養成委員会主催の講座、後期はカトリック講座「信仰生活の基礎知識～今さら聞けない教会のこと～」をテーマに計10回の講座を計画いたしました。典礼暦や祈り、葬儀など日常生活の身近な事が各回の講義テーマとなっています。

洗礼を希望されている方々の学びや、カトリック信者としての基礎的な部分をもう一度見直し、理解を深めることができる内容です。一人でも多くの方の参加をお待ちしています。

- ◆場所 カトリックセンター2階講堂
◆受講料 5,000円(全10回分) \*聴講可能(1回1,000円)
◆申込先 カトリック長崎大司教区 生涯養成委員会
Fax 095-841-7732
申込期限 2023年9月29日(金)
カトリックセンターで受講希望または初回の講座受講の場合は期限を厳守してください。

土曜日 午前10時30分～11時30分 ★公開講座のみ午前10時～12時です。
テーマ: 信仰生活の基礎知識～今さら聞けない教会のこと～ テキスト: なし

Table with 4 columns: 回数 (Session), 月日 (Date), 講師 (Instructor), 内容 (Content). It lists 10 sessions from October to February, covering topics like liturgical life, prayer, and sacraments.



生誕450年 イタリア・ルッカ巡礼

### 元和の殉教者 オルスツチ神父の故郷へ

イタリアのルッカは、西坂公園と中町教会での元和の大殉教(2022年9月10日)が400周年で殉教した55人の1人、ドミニコ会士福者アングエロ・オルスツチ神父の故郷です。昨年、



0年に当たるため長崎からの参加を要請され、私と中村 満神父様(長崎教区)を含む8名で一連の行事に参加しました。5月6〜7日は日本のキリシタン史や殉教、オルスツチ神父様に関する講演がありました。ただ、6日は私以外の方はルッカの巡礼をし、7日は私



写真①7日ピサの司教座聖堂でのミサ、②8日ルッカで開催された日本キリシタン史展示会。

「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる」(マタイ5・9)

この時期になると、この言葉が気になります。やはり長崎に居て、8月になると原爆記念日の行事や関連の行事が行われ、そこで活動している方々の思いを聞くことが多くあるからかもしれません。昔から人間は平和を望んで生きていたのに、毎日どこかで起きている戦争のニュースが後をたちません。なぜ? どうして? 争うのでしょか。自分たちの「正義」を前面に出すと戦争になるのでしょうか。平和を実現する方法は、相手を思いやり、理解する心と対話だと私は思います。「人類よ、戦争を計画してくれな」永井隆著「長崎の鐘」の本の帯にこう記しています。子どもたちはいつ、この本に出会うのでしょうか。また、平和という言葉が胸に留まるのは、大人側の責任を強く感じます。

も一緒にピサを訪れ、ピサ大司教区の司教座聖堂の11時のミサの司式を頼まれました。午後には作曲家G・ブッチーニが半生を過ごした家を訪れ、数々の遺品を見、墓参をしました。8日はオルスツチ神父様の生家を訪れ、生誕記念ミサに参加し、午後は日本のキリシタン史の展示会(名誉大司教 高見三明)

### 海外からの巡礼団 浦上へ

永井隆・緑夫妻について知る

現在、カトリック信徒運動の共同体「永井隆と緑の友の会」が、永井隆・緑夫妻の列福列聖調査に際し、長崎教区の承認のもと、最初の予備調査を進めようとしている。

5月28日(日)、同会のガブリエレ・デイ・コミテ会長とパオラ・マレンコ副会長を含む約40人の巡礼団が浦上教会を訪れた。この巡礼は、先述の「友の会」と深い関わりがある「コムニオーネ・エ・リベラツィオーネ」の共同体が主催したもの。日本のキリスト教の歴史



巡礼団はミサの中で熱心に祈り、高見大司教の話を終始聴き入っていた。

2020年  
「被爆75年から  
5年間のチャレンジ」  
<https://nuclear-free.net/>  
核なき世界基金

カトリックセンターで映画上映会  
『シスターと神父と爆弾』  
6月24日(土) 13時30分からカトリックセンターホールで、ドキュメンタリー映画『シスターと神父と爆弾』の上映会が行われた。主催は映画「シスターと神父と爆弾」を観る会、後援はカトリック長崎大司教区。当日は、浦上教会の被爆十字架返還(2019年)を受けて22年に十字架のレプリカをアメリカ

感謝  
一 寄付  
長崎大司教区  
● 匿名様  
長崎カトリック神学院  
● 匿名様  
一 香典返し  
長崎大司教区  
● 演劇トシ子様  
故ペトロ演劇真様  
右の方々からご寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

### みことばにふれて202

松下 邦代

(長崎教区信仰教育委員会、浦上教会 カテキスタ)



がいます。子どもたちが小さな手をしっかりと合せて祈っている姿はその意味を味わっているかのようです。また、いつも神さまが私たちを愛して見守っていることを忘れないでと願っています。十字架のしるしをする時は、静かに丁寧にするように、心を合わせて

教会学校で子どもたちと聖堂でお祈りをする時、正面の十字架を見上げながら、縦の板と横の板とでなる十字架の意味を話し、心から平和を願って祈ります。縦は神さまの愛、横は人間への愛、交わるところにキリスト

この日は浦上教会の9時30分のミサに参加した。ミサ後、一行は被爆マリア小聖堂で中村倫明大司教から歓迎のあいさつを受け、続いて、高見三明名誉大司教から長崎の教会の歴史とともに、永井隆・緑夫妻に関する話を聞いた(写真)。

5月30日逝去。70歳。五島市岐宿町生まれ。75年初誓願、83年終生誓



マリア・クリスティーナ 赤岩香代美修道女 (純心聖母会)

5月14日逝去。75歳。被爆2世の援護施策を求める活動と被爆体験の



丸尾育朗さん (諫早教会所属)

5月9日逝去。77歳。1945年11月6日長崎市に生まれ、大牟田市で幼少年期を過ごす。63



山口正美神父 (聖アウグスチノ修道会)

願。恵の丘原爆ホームで栄養士、東京・石神井の黙想の家では調理師として勤務。純心女子学園(長崎)の調理場主任を務め、温かい配慮と創意工夫を凝らした料理で皆を喜ばせた。2005年から田園調布修道院、14年からロザリオの聖母修道院で会員の食事に力を注いだ。植物に

心をかけ、きれいな花が咲くと聖堂に飾った。また、ジャムやジュース、ザボン漬けやかりんとうなどの手づくりを職員や姉妹たちに分かち合っていた。今年4月、八王子修道院へ。5月上旬に腹痛を訴え、入院。がんの末期症状で容態が急変し、5月30日に御父のみもとに召された。

継承に長年取り組み、20年以上にわたって「長崎県被爆二世の会」の会長を務めるなどした。また、高校生平和大使らの海外渡航や訪問先での交流に同行するなどの支援に努め、長崎教区においては平和推進委員会の一員として活動に力を尽くした。被爆70年にあたる201

5年、本紙8月号「人」のインタビューの中で、「2世、3世につないで、核兵器廃絶を目指したい。現実を信者としてどうとらえ、どう考えるか。世界に向けての平和の発信は、長崎の使命だと思」と語っていた。葬儀ミサ、告別式は5月16日、諫早教会で行われた。

葛西、名古屋・港で働き、レジオ・マリエの指導滞日外国人司牧、船員司牧などに力を注いだ。晩年は教誨師としても奉仕。港修道院で引退後、2021年から長崎で入院生活を送っていた。葬儀ミサ・告別式は5月11日、同教会員と中村倫明大司教、司祭、信徒が見守る中、城山教会で行われた。

カトリック深堀教会納骨堂「ラザロ館」  
納骨櫃  
安価 1室 55万円  
プラス維持管理費20万円(50年分)  
●風光明媚な深堀の丘の上にある静かな環境! ●車横付け・駐車場完備!  
お問い合わせお申し込み カトリック深堀教会  
長崎市深堀町5-272 ☎ 095-871-3459  
ご見学は事前にお問い合わせください。

タンスの中身は入れたまま 責任ある安全運送!! (見積り無料・荷造り発送も致します)  
24時間営業・年中無休 受付時間 7:00~22:00  
水浦運送  
シモン 水浦 幹雄  
長崎市上野町12-3  
TEL(095) 64-7151  
携帯 090-7923-9005

主の平安  
株式会社 五島式典社(斎場) 五島中央会館 奈留会館  
代表取締役 ヨゼフ 浦 昭  
24時間営業  
五島市上津町 1385番地1 TEL (0959) 74-5551  
FAX (0959) 74-5552  
五島市奈留町 1899-1 TEL (0959) 64-3101  
FAX (0959) 64-3102